

『復興のまちづくりに向けた地区懇談会』の開催結果について

■ 開催日：平成 25 年 10 月 1 日(火)～平成 25 年 11 月 11 日(月)

■ 開催地区：市内 13 地区

(開催順：立根、日頃市、吉浜、越喜来、大船渡①、大船渡②、末崎①、綾里、盛、赤崎、蛸ノ浦、猪川、末崎②)

■ 内 容

東日本大震災からの早期復興を図るために策定した大船渡市復興計画の推進にあたり、本年度(平成 25 年度)が、10 年間の計画期間における前期 3 年間の最終年度となることから、同計画事業の進捗状況などについて説明し、市民(各地区住民：自由参加)から、今後のまちづくりについて広く意見、提言などをいただいた。

■ 実施状況(開催時間：19:00～21:00)

実施日	地区	会場	参加者数
(H25)10月1日(火)	立 根	立根生活改善センター	26 人
10月2日(水)	日 頃 市	日頃市地区コミュニティセンター	60 人
10月3日(木)	吉 浜	吉浜地区拠点センター	27 人
10月4日(金)	越 喜 来	越喜来中学校体育館	43 人
10月10日(木)	大船渡①	大船渡地区公民館	29 人
10月11日(金)	大船渡②	大船渡地区公民館	25 人
10月15日(火)	末 崎 ①	ふるさとセンター	46 人
10月18日(金)	綾 里	綾里地区コミュニティ施設	30 人
10月22日(火)	盛	カメラアホール	37 人
10月24日(木)	赤 崎	漁村センター	61 人
10月25日(金)	蛸ノ浦	蛸ノ浦漁村厚生施設	27 人
10月28日(月)	猪 川	猪川地区公民館	26 人
11月11日(月)	末 崎 ②	碁石地区コミュニティセンター	25 人
合 計			462 人

※対象地域 大船渡①…富沢一区、富沢二区、地ノ森一区、地ノ森二区、雇用促進住宅、赤沢団地、赤沢、上山、中央通、台町、茶屋前、南町、明土、屋敷、県立病院合同公舎、地ノ森住宅、山馬越住宅

大船渡②…大船渡①以外の大船渡地区

末 崎①…末崎②以外の末崎地区

末 崎②…中井、西館、泊里、碁石、三十刈、山根

1 立根地区の結果概要（10/1(火) 於：立根生活改善センター、参加者数：26人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 現在、県立高田高校が使用している旧農業高校の校舎について、高田高校が移転した後は、老人福祉施設、総合福祉センターなどとして役立ててはどうか。
- ・ 今後、要支援1・2の方の施設利用が希薄になるので、健康維持のため、安価で利用可能な、心のケアも包括的にできる施設を整備してほしい。
- ・ 保育士の配属を市全体で調整するなどして、保育環境の安定を図ってほしい。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 高校を卒業した若者が地元で就職できるよう、若い世代の希望をできるだけかなえられる職種の雇用を確保してほしい。
- ・ カツオの水揚げ増加に貢献するよう、魚市場の水道設備の充実により水、氷を短時間で準備可能な状態にしてほしい。
- ・ 北里大学との連携により、新産業開発を進めてほしい。
- ・ バスの停留所、大型バスが通行できる道路、遊歩道などのインフラを整備しないと観光産業は育成できない。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 三陸道大船渡インターチェンジへの右折車で国道45号が渋滞しているので、下欠橋からY・Sセンターへ向かう市道を対面交通できるように拡幅整備し、う回路としてほしい。
- ・ 三陸道大船渡北インターチェンジを両方向で活用(乗降)できるよう整備し、産業基盤を強化してほしい。
- ・ 県内陸部と大船渡港を連絡する道路を強化してほしい。
- ・ 被災した企業が立根町に再建したことで自動車交通量が増加し、高齢者や子どもたちの交通環境が危険な状態になっているので、道路の拡幅など歩行者の安全を確保してほしい。
- ・ 上水道が整備されていない地域があるため、不公平のないよう整備してほしい。住宅の立地などに支障を及ぼす場合がある。
- ・ 立根地区の水田地帯の多くが休耕田、耕作放棄地を抱えていて、農業をやめる人も多いが、農地を手放す場合、農業振興地域を解除する必要はあるのか。また、地域(区域)を見直す予定はあるのか。
- ・ 災害公営住宅の整備にあわせ、周辺水路の危険箇所を改善・整備してほしい。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 避難行動要支援者名簿の作成が、災害対策基本法に位置づけられたようであるが、作成状況を教えてほしい。
- ・ 避難場所は、どの程度市民に周知されているか。
- ・ 愛知県では、特別支援学校と協定を結んで福祉避難所を開設し、サポート体制を整えているが、障がいのある生徒たちの避難・サポート体制はどのような状況か。
- ・ 避難場所に指定されている民間の施設に対して、災害時の活動について具体的に伝えているのか。

(2) その他

※ 意見・提言は、特になし。



2 日頃市地区の結果概要（10/2(水) 於：日頃市地区コミュニティセンター、参加者数：60人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 学校校庭に建設された応急仮設住宅は、いつ頃まで立地するのか。校庭の復旧はいつになるのか、予定を教えてください。
- ・ 校庭に応急仮設住宅が立地しているならば、子どもたちが運動できる、遊ぶことができる別の場所を早急に提供すべきである。
- ・ 応急仮設住宅に空室が発生しているのなら、施設を統合し、子どもたちが早く校庭を使えるよう工夫してほしい。
- ・ 伝統芸能記念伝承館を建設して、伝統芸能の伝承と交流人口の確保を図ってほしい。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 広範な商業展開のため、大規模商業施設を誘致してほしい。
- ・ ハローワークの求人は、ほとんどがパート待遇で正社員の募集がない。安定的な雇用確保のため、新たな産業を創造する必要がある。
- ・ 宅地環境の整備と起業の奨励で雇用を確保してほしい。
- ・ 菌床しいたけ生産施設の整備だけでなく、海外への展開など新しい発想で農業振興を図ってほしい。
- ・ 天候型ハウス栽培施設の建設で若者の就農と定住促進を図ってほしい。
- ・ 五葉山太陽光発電事業は、県立自然公園の意義、観点からするとよくないのではないかと。自然景観への影響をどのように考えているか。こうした事業・計画の実施に際しては、多くの人の意見を聴いたうえで判断してほしい。事業期間終了後は、元の森林に戻してほしい。
- ・ 日頃市町関谷地域に産直小売店を開設し、賑わいを創出すべきである。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 上水道の整備計画はどのようになっているのか。水道が整備されていないと、住宅を建てることできない。
- ・ 猪川町、立根町及び日頃市町の高台の土地を活用して住宅建設を促進するとともに、災害に強い道路を整備することが地域振興の一手として考えられる。
- ・ 日頃市地区のインフラ整備は、これからも実施してもらえないのではないかと。

④ 防災まちづくりに関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

(2) その他

※ 意見・提言は、特になし。



3 吉浜地区の結果概要（10/3(木) 於：吉浜地区拠点センター、参加者数：27人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 吉浜地区では4戸が被災しており、住宅を自力再建するが、それに対する補助制度はあるのか。
- ・ 少子化が進んでいることから、子育てしやすい環境整備など、子どもたちの現状数を維持できる施策を積極的に進めてほしい。
- ・ 少子化の現状と将来を考慮すれば、学校の統廃合も検討する必要があるのではないか。
- ・ 学校のグラウンドを芝生化してはどうか。

② 産業・経済の復興に関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 根白漁港に通じる道路の上方の駐車場として利用されている場所が、震災により地盤が傾いて危険である。改修を検討してほしい。
- ・ 脱輪、落下事故を防止し、救急車と消防車も通行できるよう、側溝に蓋掛けしてもらいたい道路がある。
- ・ 劣化して水が漏れている側溝の整備を検討してほしい。
- ・ 排水処理場は復旧したが、地盤沈下したために施設からの排水が流れない状態である。排水工事の計画はどのようになっているのか。
- ・ 吉浜川河口の津波石のある一帯(土地)を、防災意識を高める公園として整備してほしい。ジオパークとも関連づけて検討してほしい。
- ・ 吉浜地区において、防潮堤の背後に二線堤となる道路を整備すると聞いていたが、どうなっているのか。
- ・ 防潮堤の整備予定位置は、過去に2回も被災している。別の整備方法にしてほしい。
- ・ サケの遡上に影響がないよう、防潮堤の整備にあわせて吉浜川の残渣物も撤去してほしい。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 吉浜地区で津波記憶石を建立する計画を検討している。相談先となる市の部署を教えてください。
- ・ 通学路を津波が来襲する恐れのない高台の道路に変更してはどうか。

(2) その他

- ・ 復興計画後期は、「災害に強い、魅力あふれる新しい大船渡をつくる期間」とある。新しい大船渡のイメージはどうかということだが、津波で流失したところはまったく違うまちになる。(家屋などがあまり流失していない)吉浜では魅力ある未来をどのように描けばよいのか。



4 越喜来地区の結果概要（10/4(金) 於：越喜来中学校体育館、参加者数：43人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 災害公営住宅や防災集団移転促進事業の計画内容について、具体的に知りたい。
- ・ 高齢者福祉施設の早期再建を望んでいるが、職員が確保できないために機能が十分に発揮されないと聞いている。市が支援してほしい。
- ・ 越喜来中学校は老朽化しているが、校舎修繕などの計画はどのようになっているのか。全面改築、バリアフリー化などを進めてほしい。
- ・ 三陸公民館の復旧においては、設計段階から地域住民の意見を聴いて反映するとよい。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 五葉山太陽光発電事業は、県立自然公園の環境に影響を与えるのではないかと。県立自然公園は観光資源として保全して大事にしたいが、市は現在の景観をどのようにして保全するのか。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 漁港施設の復旧が、未だに行われていないところがある。整備時期を教えてください。
- ・ 復旧工事を実施した箇所をその後嵩上げするなど、工事が繰り返されることのないよう知恵を出してほしい。
- ・ 海岸施設災害復旧事業による砂浜の復旧は良いことである。海浜植物も保全してほしい。
- ・ 防潮堤の内側(陸側)の土地利用が決まっていないのに、堤防の高さや位置が決まるのはおかしいのではないかと。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 避難所になった公民館は、和式トイレで使いにくかったうえに備蓄物資もなかった。防災機能、避難所機能を拡充するための公民館整備などに対する補助制度はあるのか。

(2) その他

- ・ 復旧の概念を超えた整備など、従来の考え方にとらわれない、柔軟な姿勢で復興に臨むべきである。
- ・ 復興の進捗について、分野別の純生産額の対比など具体的な数値で示してほしい。
- ・ 復興を進めている、復興が進んでいるというが、市民の実感と市の感覚には開きがある。
- ・ 復興計画の計画期間 10 年が完了した後のまちを想像すると、市が考えるようにならないのではないかと不安である。



5 大船渡地区①の結果概要（10/10(木) 於：大船渡地区公民館、参加者数：29人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 住宅再建における嵩上げ用土砂の手配は、自分(個人)でしなければならないのか。
- ・ 災害公営住宅の入居希望などに関するアンケートは、応急仮設住宅入居者のみに配布されたのか。
- ・ JR大船渡線から海側の土地区画整理事業区域内の被災した土地の買い取りは、どの範囲まで、何の事業で行うのか教えてほしい。
- ・ 土地区画整理事業区域内において、遅いところでは、住宅再建までに5年以上待たなければならないことから、住宅再建後に事業区域に店舗を再建するとなると、資金的余裕がなくなる。店舗再建の支援策を検討してほしい。

② 産業・経済の復興に関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 漁港の復旧率が5%、防潮堤の復旧率が0%と低いが、市の対応はどうか。
- ・ 市の中心地から三陸縦貫自動車道にアクセスするインターチェンジを整備してほしい。
- ・ 現在、都市計画道路茶屋前線が通行止めであるが、JR大船渡線の海側から国道45号に抜けられるよう、仮設でもよいので道路を整備してほしい。
- ・ 大船渡町に大きな公園を整備すれば、人が集まり、賑わいが生まれるのではないかと。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 自主防災組織の防災訓練の項目が多く、的をしぼりにくい。

(2) その他

※ 意見・提言は、特になし。



6 大船渡地区②の結果概要（10/11(金) 於：大船渡地区公民館、参加者数：25人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 大船渡町内における防災集団移転促進事業の参加希望者が少ないが、なぜそのようなことになっているのか。
- ・ 国道 45 号から防災集団移転促進事業の移転先に連絡する道路が狭く、勾配が急で危険なため、宅地造成にあわせて道路も改良してほしい。
- ・ 防災集団移転促進事業の移転先に連絡する道路を整備する旨明示すれば、良い団地になると理解できることになり、参加希望者が増えるのではないかと。
- ・ 陸前高田市では災害公営住宅の 1 階に店舗を整備するなど、買い物の利便性を確保している。大船渡市でもそのような工夫はできないか。
- ・ 学校に設置した応急仮設住宅を早期に撤去すべきである。子ども達に校庭を返してほしい。

② 産業・経済の復興に関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 永沢地域の防潮堤整備の進捗状況について教えてほしい。
- ・ 県道丸森権現堂線は、夜間には真っ暗になるほか、歩道もなく危険である。街灯や歩道を整備できないか。
- ・ 県道丸森権現堂線の幅員が狭い。拡幅する計画はないのか。
- ・ 県道丸森権現堂線の永沢から丸森の区間は、歩道を広くして、自動車がスピードを出さず、安全に通行できるように改良してほしい。
- ・ 旧中学校通りが狭くなると聞いているが、自動車避難シミュレーションや国道 45 号とのつながりを考慮して、避難しやすいよう計画すべきではないか。子孫が安心して暮らせるまちを残したい。

④ 防災まちづくりに関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

(2) その他

- ・ まちづくりへの意見や要望は、復興施策にどのように反映されているのか。
- ・ 復興計画推進委員会の学識委員の方々から、復興やまちづくりに関する助言をいただくべきである。



7 末崎地区①の結果概要（10/15(火) 於：ふるさとセンター、参加者数：46人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 学校に設置した応急仮設住宅を早期に撤去して、子ども達に校庭を返してほしい。
- ・ 仮設で公民館を設置している公園に遊具を設置するなどして、子ども達の遊ぶ環境を整えてほしい。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 基石海岸にヨットハーバーやスポーツ施設、キャンプ場などを整備して、子どもから高齢者まで楽しむことができる観光地としてほしい。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 門の浜漁港の防潮堤復旧工事は、既存の防潮堤を手直ししているが、新たに築造するのであれば、二度手間になるのではないか。
- ・ 細浦漁港の防潮堤は、湾を囲むかたちではなく、水門形式で整備してほしい。
- ・ 船河原地域は県道から水が浸入し、河川からも津波が遡上するので、対策を検討してほしい。
- ・ 小細浦地域の防潮堤の計画は、どのようになっているのか。
- ・ 大船渡港の防潮堤の高さは、T.P.+7.5mと聞いているが、明治三陸津波を想定した高さとなっているのか。
- ・ 主要地方道大船渡広田陸前高田線は、平地域までではなく、陸前高田市小友地区まで連絡する道路として整備してほしい。
- ・ 復興計画事業が進むと工事関係者や車両、建設資材などが不足するが、どのようにして調達するのか。
- ・ 県道丸森権現堂線の幅員が狭い。拡幅する計画はないのか。
- ・ 防潮堤背後の地盤沈下した土地を嵩上げしてほしい。

④ 防災まちづくりに関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

(2) その他

- ・ 復興交付金はどのようなことに使えるのか。地元で要望すれば対応してもらえる予算なのか。
- ・ 復興計画事業の予算(事業費)は、市が復興計画事業を行うために必要な金額なのか、国や県から提示されている金額なのか。
- ・ 復興計画事業の予算を一層執行し、早く復興を進めてほしい。



8 綾里地区の結果概要（10/18(金) 於：綾里地区コミュニティ施設、参加者数：30人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 地震のたびに地盤沈下して家が傾いてしまう。港地域は崖地に面しているので、崖地の法面工事を実施してほしい。
- ・ 防災集団移転促進事業で住宅を移転するが、移転先のコミュニティ施設の整備は、地域では対応できない。コミュニティ形成のビジョンを示してほしい。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 綾里地区のサケ養殖においては稚魚を購入しているが、卵から孵化するほうが、回帰率が高くなるのではないか。
- ・ 定置網を保管する倉庫が必要であるが、低地で土地を確保できないか。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 岩崎地域では地盤の嵩上げをしないと聞いているが、防潮堤後背地の土地利用はどのようになるのか。
- ・ 岩崎地域においては、約80%の人が防災集団移転促進事業で移転するが、移転元の土地を使えるよう盛土してもよいのではないか。
- ・ 防災集団移転促進事業の移転元の土地利用計画は、いつ頃説明してもらえるのか。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 夜間や休日に避難する際の旧綾里出張所の使用やさまざまな活動・取り組みの手順、ルールなどについて教えてほしい。
- ・ 集中豪雨の際には第二線堤がダムになり、被害が拡大するのではないか。
- ・ 野形地域においては、急傾斜地に近接して家が建っているので、土砂災害が起きないように防災まちづくりを進めてほしい。
- ・ 自然災害に強い安全なまちづくりは、我々の責務だと思っている。

(2) その他

- ・ 市は、綾里地区のまちづくりの方向性をどのように考えているのか。
- ・ 市民意識調査の結果を踏まえたまちづくりの考え方を示してほしい。
- ・ 復興は、市民、地区及び市が一体となって進めるべきである。



9 盛地区の結果概要（10/22(火) 於：カメラホール、参加者数：37人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 下館下地区の防災集団移転先の公募について、大船渡町の被災者が対象につき、盛町の被災者は申込みできないということだが、同じ被災者であり、公平に扱うべきである。
- ・ 応急仮設住宅入居者の早期の住宅再建に向け、盛地区の被災者も防災集団移転促進事業に参加できるように要件を緩和してほしい。
- ・ みどり町地域の災害公営住宅は戸数が多いが、住宅建設に合わせて周辺道路も整備するのか。
- ・ 被災者の心のケアと健康維持が大切である。ケアにあたる支援員の相談にも対応する体制が求められている。復興の重要課題として取り組んでほしい。
- ・ 新たに整備する防災センターが、防災集団移転促進事業の移転先用地に隣接して建設されるが、住環境への配慮はどのように考えているのか。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 大船渡駅周辺地区のJR大船渡線より海側のエリアに、大型店舗など民間商業施設が建設されると聞いているが、商店街との共生をどのように考えているのか。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 防災センターにアクセスする道路は、県立大船渡病院に向かう道路と連結するように新設整備する必要がある。
- ・ 防災センター建設予定地から三陸縦貫自動車道に連絡するインターチェンジを整備してほしい。
- ・ 現大船渡消防署が防災センター建設地に移転するが、移転跡地はどのように活用するのか。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ サン・リアなどの高い建物が、津波避難場所に指定されていないのはなぜなのか。避難場所として適切な施設と思う。
- ・ 地域防災計画の見直しや防災訓練の実施に際しては、震災の教訓や地区ごとの課題なども含め、市民の意見を反映してほしい。
- ・ 防災センター建設予定地は高压電線に近接しているが、デジタル防災行政無線などに電磁波は影響しないのか。
- ・ 自分の命を守ること及び郷土愛の育成につながる、子ども達に対する防災教育が必要である。
- ・ 小中学校の防災教育は、震災前後でどのように変わったのか教えてほしい。
- ・ 今回の震災時において、小中学校では、子どもたちを被災する危険があるにもかかわらず帰宅させていた。安全性を確保できるよう改善すべきである。
- ・ 釜石市においては、中学生に対する防災教育により、小学生や高齢者などの避難を支援して命を守った事例がある。大船渡市でもこの事例を参考にしてほしい。
- ・ 震災時や昨年(平成24年)12月の津波警報発令時において、国道45号が渋滞し、歩行者が横断できなかった。高齢者でも安全に高台に避難できるよう、横断方策などについて改善してほしい。
- ・ 地域防災リーダー研修会を修了した方々でチームを組織し、防災に関する情報提供や訓練などを地区・地域において推進してもらうなど、市民と一丸となった防災まちづくりを進めてほしい。

(2) その他

- ・ 今後、建設資材や建設技術者のコスト高騰や不足などが予想されるが、各種事業の早期着工などに悪影響を及ぼさないよう対応できるのか。
- ・ 復興計画策定時に把握した予算が、土地や資材の価格高騰などにより不足した場合、予算の見直しが必要となるのではないのか。

- ・ 市は、復興に関する市民意識調査の結果をどのように受け止めているのか。市民は、市に対してどのような協力が必要かなどについて考えるために聞かせてほしい。
- ・ 3Dなどの映像を作成・活用して、まちづくりの概要などをわかりやすく説明してほしい。



10 赤崎地区の結果概要（10/24（木） 於：漁村センター、参加者数：61人）

（1）復興計画の分野（柱）ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 応急仮設住宅に住む被災者の住宅再建が、まったく進んでいない。チリ地震津波の際には3年で復興したのに、災害公営住宅も建設されていない。中赤崎地区の復興をどのように考えているのか。
- ・ 震災前と比較して、住宅の建築確認申請～許可に要する期間が長くなっている。手続きを迅速にしてほしい。
- ・ 大洞地域の集団移転先の地権者に対して説明があったが、その後、場合によっては移転先とならないところが発生すると聞いて戸惑っている。あいまいな説明をしないでほしい。
- ・ 市の防災集団移転促進事業の説明に耳を傾けない人もいるが、地元復興委員会にさまざまな情報を報告してもらえれば、合意形成につながる。なるべく協力したい。
- ・ 高台移転に関する調査で被災者の意向を把握しているが、調査から時間が経過しているのに市から回答がない。この間、何をしていたのか。
- ・ 参加希望者の少ない移転先は、たとえ1世帯であっても整備するのか。移転先の宅地が余ったら、地権者はどうなるのか。
- ・ 防災集団移転促進事業の進捗が遅いので、自力で再建用地を確保するしかない。住宅再建が早く進むよう、自力再建に対しても支援すればよいのではないか。
- ・ 学識経験者や専門家など被災していない人の意見を聴いても、移転先は決まらない。被災者の意見を聴いたほうが早く進む。
- ・ 赤崎地区にも介護保健施設を整備してほしい。
- ・ 防災集団移転促進事業による移転先での地域公民館整備に係る仕組みと通常の建設補助制度を統合して、地域の費用負担を軽減するよう対応してほしい。
- ・ 地域公民館の建設補助金は、消費税増税、建築資材価格の高騰等を考慮して引き上げられるのか。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 漁業従事者の生活を支援する方策を実施してほしい。
- ・ 区画漁業権を有していない漁業従事者の生活支援は、どのように行うのか。
- ・ 工場からの重油の流出やガレキで海が汚れており、漁業者の生業が再生できない。水質浄化など漁場環境の整備については何度も要望しているが、どのように考えているか。なまこなどが獲れるのは、いつ頃になるのか。
- ・ 震災前に漁業に影響を与えないという条件で岸壁を整備した経緯がある。そのような事情を承知しているのか。
- ・ 刺し網漁の網にガレキがかかる。海の再生や魚介類が育つ海づくりは、漁業従事者でなければできない。ガレキ撤去作業を漁業従事者に任せるなど、雇用の確保について考えてほしい。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 市からの説明では、盛土も現主要地方道に手を加える計画がないとのことだったので、店舗を自力再建中である。その後、県から、改良整備する主要地方道の取付道路を敷地にかかるかたちで、勾配をつけて整備するとの話があった。県と市で連携が図られていないのではないか。
- ・ 新たな主要地方道に、現道や市道からアクセスする道路を早期に整備（着工）してほしい。
- ・ 震災前、個人所有の擁壁を整備する際に、河川護岸を嵩上げすることが考えられるので、河川から離して整備するよう言われたことからそのようにしたのに、実際には嵩上げが計画されなかった。説明内容が覆っている。
- ・ 被災エリアから改良整備する主要地方道への取付道路は、地域住民の意見を聴いて計画したのか。地域では望んでいない。改築後の赤崎小学校への取付道路にも近接しすぎている。

- ・ 赤崎地区の改良整備主要地方道については、復旧・復興の中では現道に接続せざるを得ないが、抜本的な改良は、今後の課題として認識しているということでしょうか。
- ・ 浸水した土地の利用について、企業誘致や太陽光発電用地としての利用など、どのようなビジョンを持っているか。
- ・ 公共交通が不便で住みにくく、高齢者などは赤崎地区を離れてしまうのではないかと。三陸鉄道の新駅を佐野地域に整備してほしい。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 八坂神社周辺の法面(擁壁)に亀裂があるのに、避難場所に指定されている。安全性が確保されていないのに避難場所に指定するのはおかしい。以前から補修など要望している。なぜ対応しないのか。
- ・ NPO法人から、後ノ入公民館に太陽光発電パネル設置についての働きかけがあったが、二次避難場所に指定されていないので設置できないと言われた。震災時には、30人が100日あまり避難生活を送っていた。二次避難所に指定すべきではないか。
- ・ 地域公民館や集会所の建設にあたっては、吉浜地区拠点センターのように太陽光発電設備などを設置して、地域防災センターの役割を持たせてほしい。

(2) その他

- ・ 赤崎地区には、港湾整備を契機に設置した赤崎地区振興協議会がある。協議会と市が、現状の課題を踏まえたまちづくりについて話し合うよう、機会を設けてほしい。
- ・ 被災者の声に耳を傾ければ、復興は早く進む。
- ・ 盛町や大船渡町には復興事業を導入しているが、赤崎町にはない。平等に進めてほしい。



11 蛸ノ浦地区の結果概要（10/25（金） 於：蛸ノ浦漁村厚生施設、参加者数：27人）

（1）復興計画の分野（柱）ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 陸前高田市においては、高台移転などに伴う大規模な掘削工事などが行われているが、大船渡市でも同じように山が削られ、大雨の時に被害が発生するのではないかと懸念している。
- ・ 中井橋付近の土手でセシウムが高い数値で検出されたと聞いたが、放射能汚染についてはどのように考えているか。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 震災前から大船渡湾の干潟が少なくなっていたが、震災による地盤沈下でさらに消失した。湾口防波堤の築造により、海の生産力の低下も懸念されることから、干潟を造成して漁業振興を図るべきである。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 蛸ノ浦地区における改良後の主要地方道は、浸水した現道に接続する計画となっている。農道を利用して、合足地域まで接続する道路を整備してほしい。
- ・ 市民意識調査結果においても、被災前よりも発展するまちとしていくために必要な施策として、道路整備が最も望まれている。浸水しない主要地方道の整備を進めてほしい。
- ・ 主要地方道は、岸壁の高さよりも路面が低くなる計画であるが、おかしいのではないか。
- ・ 蛸ノ浦保育園と蛸ノ浦漁村厚生施設をつなぐ道路をいち早く完成させてほしい。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 事業計画位置図の清水地域の3.11の浸水区域が、実際よりも少なく表示されている。防災上問題があるのではないか。
- ・ 震災時、国土交通省ではGPS波浪計で6mの津波の襲来を把握していたが、その情報が市民には伝わらなかった。何のための設備投資なのか。
- ・ GPS波浪計の設置にあたっては、数分早く津波警報を伝えられるとの説明があったが、実際にはそのようになっていない。GPS波浪計の情報は、市でも把握しているのではないか。
- ・ 防災訓練の内容が、震災前と変わっていない。被災の教訓を踏まえていない。GPS波浪計で津波の襲来を把握したので、高台に避難するといった新しい訓練内容を加えるべきである。
- ・ 合足地域において、電柱など人目につきやすいところに津波の高さを示す目印を付してほしい。

（2）その他

※ 意見・提言は、特になし。



12 猪川地区の結果概要（10/28（月） 於：猪川地区公民館、参加者数：26人）

（1）復興計画の分野（柱）ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 災害公営住宅下欠団地の入居可能時期を教えてください。
- ・ 合併処理浄化槽整備に対する補助金は、いつまでに整備すれば補助対象となるのか。
- ・ 猪川小学校の校庭に応急仮設住宅が設置されているが、子どもの教育に影響が生じているのではないか。
- ・ 応急仮設住宅が設置されている小中学校グラウンドが、使用可能となるとなる時期はいつなのか。

② 産業・経済の復興に関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 震災後、猪川地区では人口が増加して自動車交通量が増えており、通学時において危険であるほか、朝夕には交通渋滞が発生している。道路を拡幅して歩道を整備してほしい。
- ・ 交通渋滞を緩和するため、長谷堂から主要地方道への出入口(市道長谷堂線起点)に右折レーンを整備してほしい。
- ・ 中井沢地域に通じる市道猿石線は、震災前において救急車が通行できるように拡幅する計画であったが、震災発生に伴い中断した。整備を進めてほしい。
- ・ 河川堤防上の道路(市道権現堂久名畑線)は、幅員が狭いうえに交通量が多いので、安全対策を実施してほしい。
- ・ 上中井地域の道路(市道中井沢線)や橋は幅員が狭い。観光バスが通行できるように整備してほしい。
- ・ 震災前に補修など改善が予定されていた道路(市道荒屋敷線)の整備を再開してほしい。
- ・ 猪川地区の主要3路線(市道中井沢線、長谷堂線及び富岡線)を横に連絡する道路が狭いことが、震災前からの課題である。
- ・ 猪川地区は、津波被害を直接的には受けていないが、震災後の人口増加などに伴い、道路整備に係る問題が発生している。復興交付金で(猪川地区で求めているような)道路整備ができるよう訴えてほしい。
- ・ 市街化が進んでからでは道路の改善・整備はできない。そうなる前に整備に着手してほしい。
- ・ 大船渡駅周辺地区においては、JR大船渡線の海側から国道45号に連絡する道路が、鉄道軌道を横断できなくなっているが、どのような整備計画になっているのか。
- ・ 災害公営住宅建設予定地付近(長谷堂地域)に古い水路があるので、建設工事に合わせて水路全体を改善・整備してほしい。
- ・ 富岡地域では、震災の影響で井戸水が枯れたり、水が濁ったりして困っている。配水場より地盤高さが高い土地にも水道を敷設してほしい。
- ・ 下権現堂地域一帯への下水道の整備時期を教えてください。
- ・ 猪川町には河川が3つある。適切な整備が必要である。

④ 防災まちづくりに関する事項

- ・ 大船渡駅周辺地区において、BRT専用道に設置されているガードレールが、津波避難時には妨げになる。改善、撤去など対応すべきではないか。

（2）その他

- ・ 津波で浸水した地域だけでなく、市全体のバランスを考えたまちづくりを進めるなど、復興に向けた新たな視点が必要である。

- 猪川地区では人口が増加しており、行政区をコミュニティ形成に適切な規模に見直す必要がある。
- 震災により、中井橋に設置されている「希望」のモニュメントの一部が破損している。再建してほしい。



13 末崎地区②の結果概要（11/11(月) 於：碁石地区コミュニティセンター、参加者数：25人）

(1) 復興計画の分野(柱)ごとの意見・提言

① 市民生活の復興に関する事項

- ・ 泊里地区の防災集団移転促進事業による移転先は、平成27年度に造成終了とのことだが、確実に完成するか。
- ・ 泊里地区では、防災集団移転促進事業に関する住宅再建において、設計から施工管理までの共同発注を検討しているほか、景観を重視した街並みを形成すべく、建物の建築に関するルールづくりも考えている。市においては、景観条例を定めているのか。
- ・ 防災集団移転促進事業に関連して、コミュニティ維持のための集会所、電線類の地下埋設、ソーラーシステムによる街灯設置、透水性舗装などを整備、検討してほしい。
- ・ 地域の歴史や文化資源を生かした復興を進めたい。

② 産業・経済の復興に関する事項

- ・ 碁石海岸に建設中のインフォメーションセンターや駐車場を集客に活用するため、地元で運営委員会を組織したい。
- ・ 観光地である穴通磯にアクセスする県道碁石海岸線からの取付道路は、県道が完成する時期に一体的に整備してほしい。
- ・ 末崎町には、「気仙27ヶ城」の一つである末崎城があるが、「27ヶ城めぐり」やその「めぐり」を「鎮魂と祈りの道」とするなど考えられるが、こうした地域の歴史・文化資源を生かした取り組みに対して支援してほしい。
- ・ 日本ジオパークに認定されたが、市の窓口と取組姿勢について教えてほしい。
- ・ 台風で松が倒れた(折れた)が、碁石海岸エリアの景観を守るうえでも、その処理後の「すき間」への対応が大切なのではないか。

③ 都市基盤の復興に関する事項

- ・ 泊里漁港において、防潮堤の築造が計画されているが、防潮堤の海側から近傍高台までの避難路を整備してほしい。
- ・ 市がコミュニティバスの運行を検討していると聞いているが、進捗状況を教えてほしい。
- ・ 県道碁石海岸線沿道に、観光資源としても生かせるような桜を植樹するスペースを設置してほしい。

④ 防災まちづくりに関する事項

※ 意見・提言は、特になし。

(2) その他

※ 意見・提言は、特になし。

